

第1回 和歌山県土砂災害対策審議会

1. 日時

平成26年11月30日(木) 14:30～16:30

2. 場所

和歌山県自治会館 3階 304会議室

3. 出席委員等

委員

藤田 正治(京都大学 防災研究所 防災研究所附属流域災害研究センター 教授)

國友 優(国土交通省 国土技術政策総合研究所 土砂災害研究室 室長)

中野 雅公(和歌山地方気象台 防災業務官 次長代理出席)

オブザーバー

国土交通省 近畿地方整備局 河川部 河川計画課 岸本専門官

和歌山県 総務部 危機管理局 総合防災課 松尾課長

事務局

和歌山県 県土整備部 河川・下水道局 砂防課

和歌山地方気象台

一般財団法人 日本気象協会 関西支社

4. 議事

議事1. 開会

議事2. 委員の紹介

議事3. 審議会規程(案)及び傍聴要領(案)の承認

議事4. 会長の選出

議事5. 土砂災害警戒情報の概要説明

議事6. 土砂災害警戒避難基準の設定に関する検討方針について

6. 1 変更CL(案)の検討方針について

6. 2 除外格子設定及び市町村土砂災害監視ブロックについて

議事7. その他

議事8. 閉会

5. 主な発言内容

(会長等の選出)

- 藤田委員が会長に選出された
- 國友委員が副会長に選出された

(議題)

- 土砂災害警戒避難基準の設定に関する検討方針について

土砂災害警戒情報の概要、検討課題、今後の調査審議に関する方針について事務局から説明。

委員から出た主な意見は以下の通り。

- ・ CL 対象としなかった土石流の土砂災害事例は、雨と災害との結びつきの関係性や現地の状況がどうだったのか確認が必要である。
- ・ 長野県南木曾町では1時間の短時間降雨では土砂災害が発生していなかったが、2時間続くと発生した。他府県のデータも踏まえて検討してはどうか。
- ・ 土壌雨量指数の下限値を160mmから300mmに引き上げたとき、60分積算雨量の上限値を設定していたほうが厳しく評価される。60分積算雨量が120mmよりも多い降雨事例において、安全であるという確認が取れていないので、この上限は外せないのではないか。
- ・ 60分積算雨量の上限値と土壌雨量指数の下限値については、地面が湿潤した状態での短時間集中豪雨の危険性を踏まえて検討すべきである。CL設定後、7年が経過しているが、既設の設定値を用いてもう少し様子を見てはどうか。
- ・ 2011年台風12号による豪雨において、災害が発生しなかったメッシュの取り扱いでは、新潟県でも同じような検討課題があった。新潟県では、災害が発生したメッシュに適用したCLをその近接するメッシュにも適用していた。最近の他県におけるCL設定も参考にしてはどうか。
- ・ 現行では、注意報・警報は市町村ごとの発表になっている。市町村を細分化して発表することのメリット・デメリットを検討する必要がある。例えば、デメリットとして情報量が多くなることが挙げられる。